



劇あそびが進んでくると何が子どもたちと話し合い、大道具や衣装を製作しています。魚たちが隠れる大きな岩やわかめなどの道具はやりたい子がしていましたが、途中から「やりたい！」と言う子が増え、「そこ塗って～！」や「こうやってみたらどうかな？」と子どもたちで考えながら作り上げていました。衣装では、ゴム通しからうろこのデザインまでして、個性豊かな魚たちになりました。自分たちで作った衣装と魚の帽子を被っての劇あそびでは、魚になりきって大きな声でセリフを言う姿が見られるようになりました。また、もう一度にじいろのさかなの物語を子どもたちと読み返し、表現会を楽しみに、より想像を膨らませています。これまで頑張ってきたことが最大限に発揮できるように、また元気に自信をもって堂々と表現できるように楽しみながら舞台に立ってほしいと思います。当日は、どうぞ温かい目でほし組らしい姿をどうぞ楽しみにしてください。

～にじいろのさかなあらすじ～

青く深い遠くの海に一匹の魚が住んでいました。その魚は虹色のうろこに銀のきらきら輝くうろこを持っていることから「にじうお」と呼ばれていました。他の魚たちはにじうおに、きらきらうろこを貰おうとしましたが、にじうおは知らんぷり。そうしてにじうおは他の魚から避けられるようになりました。しかし一緒に遊びたいにじうおは、大切なきらきらうろこをあげることで、他の魚たちと仲良くなり、うろこよりも大切なものを手に入れたにじうおでした。

「こわくないよ、にじいろのさかな」では、動けなくなったこぶうおを見つけた小さな青い魚が他の魚を呼びました。すると、他の魚たちも集まってきて、こぶうおを心配そうに見つめています。しばらくして、鼻の長いおいしゃさん魚がやってきて、診察をすると治すには、赤い海藻が必要であることがわかりました。ところが、それは悪魔の谷の奥深くにしか生えていないのです。しかし、にじうおは「ほくらが とってくるよ！」と言うと、他の魚たちはびっくり！そして、小さな青い魚も勇気を振り絞って一緒に悪魔の谷へ向かうことになりました。この2匹は、赤い海藻を探す途中に次々と恐ろしい出来事に遭遇します。果たして、赤い海藻を見つけることが出来たでしょうか。お楽しみに！